

意趣はかりがたしといへども、つゝ、玄んで按に、神祖百穀豐饒の國を生たまひ、その名に豐といふ文字を上にかぶらせ、豐秋津洲、又豐葦原千五百秋瑞穂之地などいふ類、みな豐字はゆたかなる意なり、又瑞穂之地といふも、穀物豐饒の意にとりての國名をおもはれぬ、秋は其時節の穀、春夏冬の三時より、多くあきたる義なるべし、故に西土にても、滌陳氏が曰、秋者百穀成熟之期、此於時雖夏於麥則秋、故云麥秋といへるなどを合せ考れば、秋とは穀物によりて、訓義をとくかた、玄かるべきなり、ことに秋字禾に従へるをもて、かた、穀物成熟の義にかゝるべし、また管子に歲有四秋といふ事みえたり、所謂春之秋、夏之秋、秋之秋、冬之秋、是四時に配當し、萬物の成收を以て秋といふなり、其語曰、農夫賦耜鐵、此謂春之秋、大夏且至、絲纒之所作、此謂夏之秋云々、五穀之所會、此謂秋之秋云々、紡績緝縷之所作、此謂冬之秋管子見えたり、これみな穀物成熟の義よりおこりて、庶物成收の上までも、秋と云義にはなりしなり、されば五穀之所會、此謂秋之秋とみえたる文辭にて、秋の秋たる義、穀熟より秋といふ義、起れる事いと明かなり、又竹秋蘭秋といふ文字、廣韻にみえたり、是等もみな前文の意と、秋字の義おなじきなるべし、故に百谷各熟爲秋、故麥以孟夏爲秋蔡邕月令章句見えたり、又秋を開明の義にとるも一考なり、白石曰、古語にアキといひしごときは、速秋津姫ハヤアキツノヒメ、また速開都咩ハヤアキツノミヤと云るされし例によらば、これも開の義にやとりぬらん、義未詳東雅といひ、和語に秋をあきと訓せしは、あきらかなりといへる意なりと日本歳時記いふに、續節序記の説も同意なり、西土にてもこれらの義も、同じき事どもあり、雲既淨而天高漢世南賦いふ、雲淨天高は、これ開明の義なり、又潦爲收而水潔同上いふも、上句と同意にして、天時共に時氣すみて、清明なる意なり、こゝをもて按に、天地の時氣あきらかなる義にて、あけといふも、一説とやすべき、あけはあかき也、赤色をあけ色といふ、草木すべて紅葉する、是色にあらはるゝなり、夜明といふ明も、よあきの義、あけ、あき同きなり、明字、日に従ひ、月に従ふの文字にて、日月の照す所、あきらかなら